

# 令和4年度 上田市立清明小学校 自己評価シート(総合報告)

学校教育目標		めざす子どもの姿(中期的目標)		総合評価						
「清く明るく 豊かな心で進んで学ぶ 子どもの育成」 ・心も体もたくましい子ども ・自分や友だちを大切にできる子ども ・自ら学ぶ子ども		①自主:豊かななかかわりやさまざまな体験を通して、自分で気づき、よく考えて自らたくましく行動できる子ども ②豊かさ:お互いに認め合う中で自分に自信を持ち、友とのかかわり合いを大切に、共に学習や生活を楽しむことができる子ども ③学び:自ら見つけた課題を、友と考えをつなぎからめ合いながら追究し、学びの楽しさや高まりを実感できる子ども		①自主自立した児童を育てるために、児童が能動的に問題解決を行えるような場を多く設定しました。特に生活科・総合的な学習の時間や生活単元学習等では、児童が自ら追究したいことを見つけて、主体的に取り組める活動を展開することができました。 ②他者と考えを共有したり、小グループ等で仲間と協働したりして問題解決に向かう経験を積ませることができました。また、他者理解として、全校で友だちにしてもらって嬉しかったことを「ありがとうメッセージ」として出し合う活動を行うことができました。 ③教科担任制導入により、子どもの学びや職員の教材研究を深めることができました。また、②・③の姿を目指し、生活科教育課程研究協議会の授業研究でも職員が学び合うことができました。授業の振り返りで定着してきたICT活用を更に充実させます。						
		今年度の重点目標		成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策
		1	一人ひとりの個性を生かし、多様性を包み込む学級・学校づくり (自主・豊かさ)	児童一人ひとりの考えを大切に、多様性を認め合う授業づくりや学級づくりに努めることができました。		○				今後も集団と違う考えや気づきを伝え合う環境を整え、多様な考えがあることを理解できる活動を増やしていきます。
2	「学びの主体者」としての子どもを育てる「ふるさと学習」の充実 (学び)	ふるさと学習では、調査、体験活動などで友や地域の方と協働して学習を進める取組が随所に見られました。	○					子どもの主体的な取り組みの場や探究的・協働的学びの場をさらに増やし、主体性や課題追究力などを養っていきます。		
対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策		
重点目標	1 自主・豊かさ	成功経験の累積	困難にぶつかったとき、仲間とともに解決していかれる適切な支援を繰り返しながら、乗り越える成功経験を積ませたか。	授業や行事以外での交流場面が少なかったことが残念でした。今後も子どもの糧となる成功体験の場を工夫していきたいと思います。	○				子どもたちが身近な生活場面においてもスモールステップで進んでいけるように支援するとともに、さらに踏み込んで仲間と共に乗り越えられるという経験を積ませていきます。	
		挨拶の充実	日常的な声がけや、児童会活動の充実により、挨拶の良さを自覚させながら、実践と評価を繰り返し、積極的に挨拶が飛び交う学校を目指したか。	挨拶運動や名前を呼んでの挨拶に取り組んできました。さらに、いつでも、どこでも、誰にでも挨拶ができるように取り組んでいきます。		○			Withコロナで児童会の挨拶運動を行ったり、挨拶の良さを考え合ったりする中で、朝と帰りの挨拶、始業と終業の挨拶及び返事なども大きな声でできるようにしていきます。	
		人権同和教育の日常化	一人ひとりを大切に、違いを認め合い、共に学びあうよさが実感できる人権同和教育を日常化したか。	全校で「なかよし宣言」を再確認し、意識を高めるとともに、普段から友だちのよいところを探す時間を作ることができました。		○			今後も様々な意見や考えの人がいてよいと子どもたちが思えるような雰囲気を醸成していきます。また、「今こそ支援が必要だ」という時を逃さず、丁寧に対応していきます。	
		思いやりの心の育成	児童を肯定的に捉え、温かい言動で接しながら、思いやりの心が全体に広がるように取り組めたか。	友だちの良さを見つたり、人に優しくすることはなぜ大切なのかを考えたりしてきたため、思いやりの心を持つ子どもが多いです。	○				愛情を注ぐ支援を継続していきます。また、思いやりの心を醸成するために、友だちの意見をしっかりと傾聴する姿勢や話し合いで折り合いをつけていく力を育てていきます。	
		研修を生かした実践	特別支援教育の研修や、児童理解の研修を全職員で積み重ね、研修を生かした実践に取り組めたか。	特別支援教育や児童理解及び授業改善や人権教育の研修を全職員で積み重ね、日常の支援に生かすことができました。	○				これからも多様な研修を通して、自己研鑽に努め、自身の授業実践や児童理解に生かす取組を心がけていきます。	
	2 学び	「ふるさと学習」の推進	「ふるさと学習」を通して、探究する楽しさを体験させながら、粘り強く追究する意識を育て、やり遂げた成果に自信を持たせたか。	身近な地域を題材に興味関心をもって取り組み、自分たちの力でやり切ろうという気持ちで活動する子どもの姿が多く見られました。	○				地域と連携した多彩な体験活動や協働的・探究的な学びが充実することで子どもは達成感や自己有用感を高めることができました。今後もこうした活動を大切にしていきます。	
		児童会活動、係活動、朝マラソン、靴揃えなどへの取り組み	自分から進んで、児童会活動や係活動、朝マラソンや靴揃えに取り組めるよう工夫して指導することができたか。	児童会活動がコロナ禍で制限されることもあったが、やれることやできることはやり方や時期を変えて行うなど工夫して取り組みました。		○			朝マラソンで自信をもった児童が多いので年間目標の設定等工夫していきます。係活動や靴揃えの取組に教師も関わり、励ます機会を多く設けていきたいと思っています。	
		学習習慣の形成	腰骨を立て、目・耳・心で話を聴き合う、学習習慣と姿勢づくりを進めることができたか。	個人差が大きいという課題があった聞く姿勢については、日常的な指導の工夫により少しずつ向上が見られています。		○			よりよい学習習慣の形成を進めていくために、人の意見を聞く姿勢の大切さを年間を通して身につけられるような支援を工夫していきます。	
		学習課題の共有	学習課題を共有し、課題解決に向けて、友の考えを聴き自分の考えが伝わるように話す場面を授業の中に設定したか。	児童自ら課題を見つけることにより、課題が掘り、主体的に取り組む児童が増えています。	○				児童の主体的な学びにむけて、「主体的な子どもの探究を支える教師のあり方」を研究してきました。その成果を生かし、来年度もこの取組を継続していきます。	
		話し合い活動の充実	ペア学習や小グループによるテーマ追究の話し合い活動を設け、共に学ぶ楽しさに触れさせながら、ともに考えを練り上げ、高める力を育むことを通して、学力向上に努めたか。	子どもたちが意見交換するだけではなく、「どうして、なぜ」、「本当にそうなのか」、「○○はどういうことなのか」などと考え合うことを楽しんでいる姿が見られました。	○				自ら課題を見つけ、友と追究する姿が多く見られています。本校研究テーマにむけて、更に友と課題に対する考えを練り上げていく力を養っていききたいと思います。	

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった